



SCHED コマンド

この章では、Cisco ONS 15454 SDH の SCHED (スケジュール) コマンドについて説明します。

22.1 SCHED-PMREPT-<MOD2>

Schedule Performance Monitoring Report (パフォーマンス モニタリング報告のスケジュール) (10GFC、10GIGE、1GFC、1GFICON、2GFC、2GFICON、CLNT、D1VIDEO、DS31、DV6000、E1、E3、E4、ESCON、ETRCLO、FSTE、G1000、GFPOS、GIGE、HDTV、ISC1、STM4、STM64、STM1、STM16、OCH、OMS、OTS、POS、STM1E、VC3、VC44C、VC38C、VC464C、VC48C、STS36C、VC4、VC416C、VC42C、VC43C、VC12、VC3、VC11、VC12)

使用上のガイドライン

NE をスケジュールまたはリスケジュールして、自動 REPT PM メッセージを使用することで回線ファシリティまたは VC/VT パスのパフォーマンス モニタリング データを定期的に報告させます。このコマンドでは、以前作成したスケジュールを削除することもできます。

プラットフォーム別にサポートされる修飾子については、[表 27-1 \(p.27-1\)](#) を参照してください。

このコマンドによってスケジュールされた自動パフォーマンス モニタリング報告は、デフォルト設定で抑制されています。ALW-PMREPT-ALL を使用すると、NE はパフォーマンス モニタリング報告を送信できます。INH-PMREPT-ALL を使用すると、NE がパフォーマンス モニタリング報告を送信しないようにできます。NE に対して作成されたスケジュールは、RTRV-PMSCHED コマンドで検索できます。

自動パフォーマンス モニタリング報告スケジュールを削除するには、<NUMREPT> パラメータを 0 にして SCHED-PMREPT-<MOD2> を発行します。



(注)

- NE に作成できるスケジュールの現在の最大数は、1000 です。この数のスケジュールが NE に作成されている場合に、さらにスケジュールを作成しようとすると、エラーメッセージ「Reach Limits OF MAX Schedules Allowed. Can Not Add More (許可された最大スケジュール数に到達しました。これ以上追加できません。)」が返されます。パフォーマンス モニタリング報告を頻繁に使用すると、NE のパフォーマンスが著しく低下します。
- スケジュールに関連付けられたカードがプロビジョニングされていない場合、またはスケジュールに関連付けられたクロスコネクタが作成されていない場合は、スケジュールを作成できません。ただし、カードがプロビジョニングされていない場合、またはクロスコネクタが作成されていない場合でも、スケジュールの削除は可能です。

22.1 SCHED-PMREPT-<MOD2>

- スケジュールに関連付けられたカードがスロットに物理的に挿入されていなければ、未処理パフォーマンス モニタリング報告カウンタの <NUMREPT> が減少しないので、スケジュールされた自動パフォーマンス モニタリング報告は開始されません。
- 期限が切れたスケジュールは自動的に削除されません。期限が切れたスケジュールを削除するには、<NUMREPT> パラメータを 0 にして SCHED-PMREPT コマンドを発行する必要があります。
- NE に同一のスケジュールは設定できません。同一の AID、MOD2 タイプ、パフォーマンス モニタ タイプ、パフォーマンス モニタ レベル、場所、方向および期間を指定すると、2 つのスケジュールは同一とみなされます。

既存のスケジュールと重複するスケジュールを作成しようとする、「Duplicate Schedule」（重複するスケジュール）のエラーメッセージが返されます。ただし、既存のスケジュールの期限が切れた場合（RTRV-PMSCHED コマンドで検索されたときに <NUMINVL> パラメータが 0 のとき、つまり、それ以上パフォーマンス モニタリング報告が送信されないとき）、同一のパラメータを持つ新しいスケジュールが既存のスケジュールに置き換わります。

- 電気回路カードまたは光カードが DLT-EQPT コマンドによってプロビジョニング解除されたとき、または DLT-CRS コマンドによってクロスコネクタが削除されたとき、そのカードまたはクロスコネクタに関連付けられているスケジュールは、自動的に NE によって削除されます。この削除によって、同じ AID を持つ別のタイプのカードやクロスコネクタが、その NE にプロビジョニングされることを防ぎ、また、NE が既存のスケジュールに基づいて自動パフォーマンス モニタリング報告を送信するのを防止します。

カードやクロスコネクタは、Cisco Transport Controller (CTC) を介してプロビジョニング解除または削除することはできません。そのカードやクロスコネクタに関連付けられたスケジュールも、何の表示もなく NE によって削除されます。

- VT レベル PM はパス終端ポート上でのみ監視されるため、光ポートでは VC11 レベル スケジュールを作成できません。

カテゴリ	パフォーマンス
セキュリティ	検索
入力形式	SCHED-PMREPT-<MOD2>:[<TID>]:<SRC>:<CTAG>::[<REPTINVL>],[<REPTSTATM>],[<NUMREPT>],[<MONLEV>],[<ISTM>],[<TMPER>],[<TMOFST>];
入力例	SCHED-PMREPT-STM1:NE-NAME:FAC-3-1:123::60-MIN, 15-30,100,,1-UP,NEND,,15-MIN,0-0-15;

入力パラメータ

表 22-1 SCHED-PMREPT-<MOD2> 入力パラメータ


パラメータおよび値	内容
AID	アクセス ID (「25.1 ALL」 [p.25-2] を参照)。ヌルにはできません。
REPTINVL	<p>報告間隔。報告が生成され、該当する OS に送信される頻度です。パフォーマンス モニタリング報告を生成する頻度を指定します。形式は VAL-UN で、UN (時間単位) が DAY の場合 VAL (値) の有効な範囲は 1 ~ 31、UN が HR の場合 VAL は 1 ~ 24、UN が MIN の場合 VAL は 1 ~ 1440 です。たとえば、10-DAY、12-HR、100-MIN のようになります。ヌル値の場合は、デフォルトで 15-MIN になります。タイプは string です。</p> <p> (注) PM スケジュールの処理は 5 分ごとに実行されるので、REPTINVL を 5-MIN 以下に指定すると最も早い 5 分ごとに処理されます。</p>
REPTSTATM	パフォーマンス モニタリング報告の開始時刻。形式は HOD-MOH で、HOD (hour of day = 24 時間制の時間) の範囲は 0 ~ 23、MOH (minute of hour = 分) の範囲は 0 ~ 59 です。開始時刻の入力値が現在の時刻より小さい場合、たとえば、入力値が 5-30 (朝の 5:30) で、現在の時刻が 10:30 の場合、報告は翌日の 5:30 に開始するようスケジュールされます。ヌル値の場合は、デフォルトで 24 時間制の現在の時刻になります。タイプは string です。
NUMREPT	スケジュールで作成される報告の数。既存の同一スケジュールを削除するには、0 の値を使用します。NUMREPT がヌル値の場合は、スケジュールは削除されるまで有効なままです。自動パフォーマンス モニタリングが抑制されている場合でも、NUMREPT の値は減り続けます。タイプは integer です。
MONLEV	要求された監視対象パラメータの識別レベル。スケジュールされたパフォーマンス モニタリング報告のすべての MONTYPE に適用されます。形式は LEV-DIRN で、LEV の有効な範囲は 10 進数値、DIRN の有効な値は次のようになります：LEV のレベル以上の値を持つ UP 監視対象パラメータは報告されます。LEV のレベル以下の値を持つ DN 監視対象パラメータは報告されます。入力がヌル値の場合は、デフォルトで 1-UP になります。タイプは string です。
ISTM	<p>特定のコマンドに関連付けられた場所。PM モードを検索する場所を識別します。入力がヌル値の場合は、デフォルトで NEND になります。どの MOD2 タイプも、FEND はサポートしません。</p> <p>パラメータ タイプは、LOCATION (アクションが発生する場所) です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • FEND アクションは、ファシリティの遠端で発生します。 • NEND アクションは、ファシリティの近端で発生します。
TMPER	<p>パフォーマンス カウンタの累積期間。デフォルトで 15-MIN に設定されています。オプションです。</p> <p>パラメータ タイプは、TMPER (パフォーマンス マネジメントセンターの累積期間) です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1-DAY パフォーマンス パラメータ累積間隔：24 時間単位。SDH PM データの場合、1 日分の履歴データだけが使用可能です。Remote Monitoring (RMON) 管理対象 PM データは、7 日間の履歴データが使用可能です。

表 22-1 SCHED-PMREPT-<MOD2> 入力パラメータ (続き)

パラメータおよび値	内容
<ul style="list-style-type: none"> 1-HR 	パフォーマンス パラメータ累積間隔:1 時間単位。RMON 管理対象 PM データにだけ適用されます。24 時間の履歴データが使用可能です。
<ul style="list-style-type: none"> 1-MIN 	パフォーマンス パラメータ累積間隔:1 分単位。RMON 管理対象 PM データにだけ適用されます。60 分間の履歴データが使用可能です。
<ul style="list-style-type: none"> 15-MIN 	パフォーマンス パラメータ累積間隔:15 分単位。この累積間隔では、32 個の 15 分バケットの履歴データが使用可能です。
<ul style="list-style-type: none"> RAW-DATA 	パフォーマンス パラメータ累積間隔:カウンタが最後にクリアされたときから開始されます。RMON 管理対象 PM だけに適用されます。
TMOFST	<p>報告 / 診断 / 実行の間の時間オフセット。最後の累積期間の終了から TMPER で指定された累積期間の始めまでです。形式は DAY-HR-MIN で、DAY (日) の有効な範囲は 0 ~ 99、HR (時) の有効な範囲は 0 ~ 23、MIN (分) の有効な範囲は 1 ~ 59 です。ヌル値の場合は、デフォルトで 0-0-0 になります。このパラメータのグループ化はサポートされていません。</p> <p>指定した値がシステムに保存されている PM 履歴の最大長より大きい場合、PM スケジュールの PM 報告は生成されません。たとえば、STM16 の PM スケジュールが 2-1-0 の TMOFST (形式: 日 - 時間 - 分) により作成される場合、システムでは 2 日間の PM 履歴しか保持できないため、報告は生成されません。15-MIN スケジュールを設定する場合、システムが保持できるのは合計で 8 時間分の 32 の 15-MIN バケットだけなので、0-8-0 より大きなスケジュールでは PM スケジュールが生成されないことになります。タイプは string です。</p>